

## 浜の活力再生プラン

## 1 地域水産業再生委員会

組織名	熊野灘棒受網漁業地域水産業再生委員会
代表者名	会長 山下 寿

再生委員会の構成員	熊野漁業協同組合、海野漁業協同組合、熊野市、紀北町、さんまめじか棒受連組合
オブザーバー	三重県

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	熊野灘海域 棒受網漁業（漁業者数10名）
-------------------	----------------------

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

熊野灘海域における棒受網漁業は、当地域の沿岸漁業を代表する漁業で、特に冬場に行なわれるサンマ漁は、古くから盛んに行なわれており、地域経済を支える重要なものである。

しかしながら、熊野市におけるサンマの漁獲量は平成20年度に2,473トンあったものが、平成24年度では469トンと1/5に減少した上に、近年の燃油の高騰等の影響により漁家経営が厳しく、年々漁業者は減少し、後継者の確保も困難な状況となっている。このため、新たな技術・機器等を積極的に導入できず、省エネ・省コスト型漁業への転換が図れないといった悪循環が生じている。しかしながら、漁船に殺菌冷海水装置を導入し鮮度保持を徹底するといった漁獲物の高品質化や加工による商品開発など、新たな価値向上を図ろうとする取組も一部で行なわれている。

## (2) その他の関連する現状等

これまで県北中部地域との交通は国道42号線に頼るのみであったが、平成26年3月に開通した熊野尾鷲道路により自動車専用道路と接続されたことで、格段に利便性が向上した。また、平成26年度には、熊野古道が世界遺産登録10周年を迎え、各地でイベントが開催されるなど、観光客の増加が見込まれている。これに合わせて、熊野市の玄関口である大泊の観光名所「鬼ヶ城」に観光客をターゲットにした水産物直売所や物販施設が整備され、熊野産水産物の消費拡大やPR機会の増大が期待されている。

## 3 活性化の取組方針

## (1) 基本方針

- ①近年、普及が進んでいるLED集魚灯を導入し、動力負荷を軽減することで燃油消費量を削減する省エネ型漁業に取り組む。
- ②食の安心安全を求める消費者ニーズに対応するため、漁船に殺菌冷海水装置を活用するほか、夜明け前に漁獲された高鮮度・高品質なサンマを活用し、魚価の向上を図る。
- ③当地の棒受網漁業者が水揚げを行う遊木漁港の衛生管理型水産物荷さばき施設（平成26年3月開設）において、殺菌海水や断熱コンテナを活用し、漁船における衛生品質管理と一体的な運用に努める。
- ④大漁時に餌料向けとなるサンマを漁協において直販事業やサンマ寿司やサンマの丸干しなど特産品開発等を行い漁家所得の向上につなげる。

(2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

プランに参加する棒受網漁業者は、資源管理計画に取り組んでおり、資源状況の維持・増大を図るためには、漁獲努力量の削減が必要と考え、公的管理措置（三重県漁業調整規則、漁業権行使規則、棒受網漁業許可内容、同許可制限又は条件）の遵守と共に、自主的管理措置（定期休漁）を重点的に実施することとしている。

(3) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成26年度）

取組内容は、取組の進捗状況や得られた成果等を踏まえ必要に応じ見直すこととする。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>魚価を向上させるため、以下のことについて取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○棒受網漁船における衛生品質管理として、殺菌冷海水装置等を活用するほか、夜明け前に漁獲したサンマは、胃袋の中身が消化され鮮度も品質も優れていることから「朝獲れサンマ」と名付けて販売するなど、安心、安全で高品質の漁獲物を地域内外にアピールしていくことで、魚価の向上を図る。</li> <li>○水揚げ後の取り扱いについて、遊木漁港荷捌き施設内で殺菌海水や専用の断熱コンテナを活用し、品質保持に努めるなど、市場関係者が一体となって品質衛生管理に取り組むことで、産地の評価をあげていく。</li> <li>○平成25年9月にオープンした漁協直営水産物直売所を活用し、地元で獲れるサンマのPRや販売機会の増加を図る。</li> <li>○平成28年度に遊木漁港荷捌き施設に隣接して新たに水産物加工施設を整備するため、郷土食であるサンマの丸干しやサンマ寿司など地域の特色を生かした特産品開発の方向性を検討し、6次産業化による漁業者の所得向上を目指す。</li> </ul> <p>→漁業収入向上の効果は4年目以降に見込む。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○棒受網漁船10隻にLED集魚灯を新たに導入し、動力負荷を軽減することで燃油消費量の削減を図るとともに、従来使用していた白熱球等の交換費用を削減する。なお、海水に透過しやすい光の波長は450から550ナノメートルで青から緑の色に相当する。サンマの目が最も敏感にとらえる波長も500ナノメートル程度であるため、青色LEDなどを組み合わせた青緑色の集魚灯を導入する。また、白熱灯で集魚すると一番光る海面に群れが集中するが、青緑色LEDを使い海中まで光を届かせることで魚が適度に分散し、サンマの魚体表面を傷つけず網で引き上げる工夫をする。</li> </ul> <p>→上記の取組により、漁業コストを12.3%削減させる。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産地水産業強化支援事業（ソフト・ハード）</li> <li>・漁業6次産業化推進事業（熊野市単独事業）</li> <li>・省燃油活動推進事業</li> </ul>

2年目（平成27年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>魚価を向上させるため、以下のことについて取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○引き続き、棒受網漁船及び遊木漁港荷捌き施設内における殺菌冷海水装置等を活用した衛生品質管理を行い、魚価の向上を図るとともに、漁協の直売所や定期市への出店を行うなど地域内外への販路拡大を行う。</li> </ul>
---------------------	--

	<p>○大漁時には値が付かず餌料向けとなるサンマが出ることから、地域の特色を生かした新たな加工商品を開発することで付加価値の向上を図るよう検討し、これを踏まえ遊木漁港荷捌き施設に隣接して新しく整備する水産物加工施設の設計を行う。</p> <p>→漁業収入向上の効果は4年目以降に見込む。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>○引き続き、全ての漁業者がLED集魚灯による操業を行い、燃油消費量削減を図る。また、より効果的な操業について検討するため、専門家による指導や他地域の大型サンマ船へのLED集魚灯導入にかかる先進事例等について学ぶ機会を設ける。</p> <p>→上記の取組により、漁業コストを12.3%削減させる。</p>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産地水産業強化支援事業（ソフト）</li> <li>・漁業6次産業化推進事業（熊野市単独事業）</li> </ul>

### 3年目（平成28年度）

漁業収入向上のための取組	<p>魚価を向上させるため、以下のことについて取り組む</p> <p>○引き続き、棒受網漁船及び遊木漁港荷捌き施設内における殺菌冷海水装置等を活用した衛生品質管理を行い、魚価の向上を図るとともに、地域内外への販路拡大を行う。</p> <p>○遊木漁港衛生管理型荷さばき施設の隣接地に水産物加工施設を新たに整備し、漁業者等が漁協と連携してサンマの丸干しやサンマ寿司など地域の特色を生かした特産品開発に取り組むことにより、6次産業化による漁業者の所得向上を図る。</p> <p>→漁業収入向上の効果は4年目以降に見込む。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>○引き続き、全ての漁業者がLED集魚灯による操業を行い、燃油消費量削減を図る。また、より効果的な操業について検討するため、専門家による指導や他地域の大型サンマ船へのLED集魚灯導入にかかる先進事例等について学ぶ機会を設ける。</p> <p>→上記の取組により、漁業コストを12.3%削減させる。</p>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産地水産業強化支援事業（ソフト）</li> <li>・漁業6次産業化推進事業（熊野市単独事業）</li> <li>・漁村再生交付金事業（農山漁村地域整備交付金 地域創造型整備）</li> </ul>

### 4年目（平成29年度）

漁業収入向上のための取組	<p>魚価を向上させるため、以下のことについて取り組む</p> <p>○引き続き、棒受網漁船及び遊木漁港荷捌き施設内における殺菌冷海水装置等を活用した衛生品質管理を行い、魚価の向上を図るとともに、地域内外への販路拡大を行う。また、取組4年目を迎えることから、衛生品質管理による鮮度保持効果と魚価向上効果について、専門家等から指導・助言を受け、取組の課題や改善点を見直す。</p>
--------------	---

	<p>○新設した水産物加工施設において、漁業者等が漁協と連携してサンマの干物やサンマ寿司など水産加工品の製造を開始し、漁協の直売所やイベント等で販売する。直売所やイベント等での販売時には、商品アンケートを行うなど積極的に消費者嗜好や価格設定について検討・見直しを行う。</p> <p>→上記の取組により、漁業収入を2.0%向上させる。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>○引き続き、全ての漁業者がLED集魚灯による操業を行い、燃油消費量削減を図るとともに、LED集魚灯導入から4年目となるため、省エネ機器導入によるコスト削減効果について検証を行う。また、専門家による指導や他地域の大型サンマ船へのLED集魚灯導入にかかる先進事例等から、より効果的な操業方法の見直し、改善を図る。</p> <p>→上記の取組により、漁業コストを12.3%削減させる。</p>
活用する支援措置等	<p>・漁業6次産業化推進事業（熊野市単独事業）</p>

#### 5年目（平成30年度）

最終年であり、以下の取組を引き続き行うが、目標達成を確実なものとするよう、プラン取組の成果を検証し必要な見直しを行うこととする。

漁業収入向上のための取組	<p>魚価を向上させるため、以下のことについて取り組む</p> <p>○引き続き、棒受網漁船及び遊木漁港荷捌き施設内における殺菌冷海水装置等を活用した衛生品質管理を行い、魚価の向上を図るとともに、地域内外への販路拡大を行う。また、衛生品質管理による鮮度保持効果と魚価向上効果について、専門家等から指導・助言を受け、引き続き、取組の課題や改善点を見直す。</p> <p>○製造した加工品の販売を漁業者等が漁協と連携して直売所やイベント等で販売する他、鮮魚に比べ保存性や輸送性に優れた加工品の特色を生かして、より高単価な消費地に近い販売先を探る。また、直売所等での販売時に、商品アンケートを行うなど積極的に消費者嗜好や価格設定について検討・見直しを行う。</p> <p>→上記の取組により、漁業収入を3.4%向上させる。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>○引き続き、全ての漁業者がLED集魚灯による操業を行い、燃油消費量削減を図るとともに、省エネ機器導入によるコスト削減効果について検証を行う。また、専門家による指導や他地域の大型サンマ船へのLED集魚灯導入にかかる先進事例等から、より効果的な操業方法の見直し、改善を図る。</p> <p>→上記の取組により、漁業コストを12.3%削減させる。</p>
活用する支援措置等	<p>・漁業6次産業化推進事業（熊野市単独事業）</p>

#### (4) 関係機関との連携

熊野市が整備し、熊野漁業協同組合が管理運営を行う「衛生管理型水産物荷さばき施設（遊木浦地方卸売市場）」への水揚げを行い、漁場から市場、流通に至る一体的な衛生品質管理に取り組むことで魚価の向上を図る。

さらには、熊野漁業協同組合の水産物直売所による直販事業や新たな加工施設の整備計画等と連携しながら、漁業の6次産業化を進め、漁家所得の向上を図る。

#### 4 目標

##### (1) 数値目標

漁業所得の向上10% 以上	基準年	平成25年度：漁業所得 円
	目標年	平成30年度：漁業所得 円

##### (2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

#### 5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
産地水産業強化支援事業	棒受網漁船へのLED集魚灯導入による燃油費の削減を図り、漁労所得の向上を図る。
漁村再生交付金	遊木漁港衛生管理型水産物荷さばき施設前の静穏域を確保するための漁港整備及び水産加工施設（地域創造型）の整備を行う。